平成30年度福岡県「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」 経過報告2

～コミュニケーション支援実習Ⅰと外出同行支援実習の現状と課題～

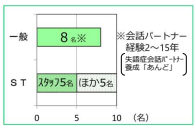
一般社団法人　福岡県言語聴覚士会　失語症サポート委員会
○髙橋雅子[1)]、金井孝典[2)]、徳本郁恵[3)]、谷村絵美[4)]、江藤信介[5)]、山口護慶[6)]、佐々木哲[7)]、灘吉享子[8)]、原田恭子[9)] 佐藤文保[10)]
1）牟田病院、2）小倉リハビリテーション病院、3）北九州市立障害福祉センター、4）福岡リハビリテーション病院、5）柳川リハビリテーション病院、6）たたらリハビリテーション病院、7）早良病院、8）麻生リハビリテーション大学校、9）福岡市立こども病院、10）福岡東医療センター

第20回日本言語聴覚学会　COI開示　筆頭発表者名　髙橋 雅子　＊演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

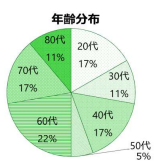
【はじめに】 平成30年度福岡県「失語症意思疎通支援者養成事業」の必修科目（40時間）のうち、コミュニケーション支援実習Ⅰ（18時間）と、外出同行支援実習（8時間）の概要と課題を報告する

【受講生18名の概要】（定員20名）

- 性別／　男性3名　女性15名
- 年齢／　25～80歳（平均54.2歳）
- 失語症者との会話経験／有17　無1（小児対象ST）



- 居住または勤務地／北九州市近郊8　福岡市近郊8　県南部2
- 規定の講義・実習を修了　17名



【実習の調整・管理】

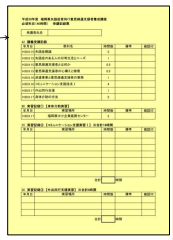
1．日程（必修40時間）
- 9／15～17日　講義・身体介助実習　計14
- 9月末～3月　実習26（コミュニケーション支援18＋外出同行支援8）

2．調整手続き
- 9／15、16　実習候補日の希望調査
- 9／17　年間日程表・受講記録票 を配付
- 協力団体に名簿と誓約書を送付

3．出欠管理
- 受講記録票 で受講生各自が管理
- 指導STが出席日に確認印
- 予定変更時は調整
- 年度末に県士会に提出

実習種別（規定時間数）	平均実習時間／人	実習候補日程時間×回数	北九州市（3ヵ所）	福岡市（2ヵ所）
コミュニケーション支援（18）	22.3時間	2～4.5時間×31回	25回	6回
外出同行支援（8）	8.9時間	3.5～8時間×4回	1回	3回

受講記録票

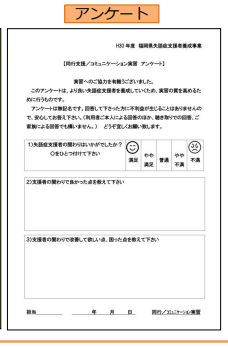


【実習の概要／共通】

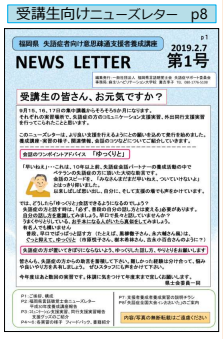
- 基本の流れ
  - ①指導ＳＴとの打ち合わせ
    スケジュール・対象者の説明など
  - ②支援の実践
  - ③振り返り（個別・集団フィードバック）
- 失語症者・ご家族との双方向性のために
  - ・支援者養成の開始、実習目的を説明した 紹介チラシ を作成
  - ・実習協力者の一部に アンケート を実施
- 受講生・協力団体の相談窓口を設置
  - ・30年度はクレーム、トラブル報告なし
- 受講生向けニューズレター 発行（A4 p8／2月）
  - ・実習の全体像、それぞれの実習の様子を知る
  - ・受講生の知識と支援技術の向上、情報提供
  - ・意欲の向上、受講生同士の親和性の向上

紹介チラシ

アンケート



受講生向けニューズレター　p8



【コミュニケーション支援実習Ⅰ】

- 既存の友の会、サロンで実習（2～4.5時間／回）
- 自己・他者評価実施
  支援者養成研修のチェックシートを使用
- 開始前に各自の目標を確認
  実習後に振り返り

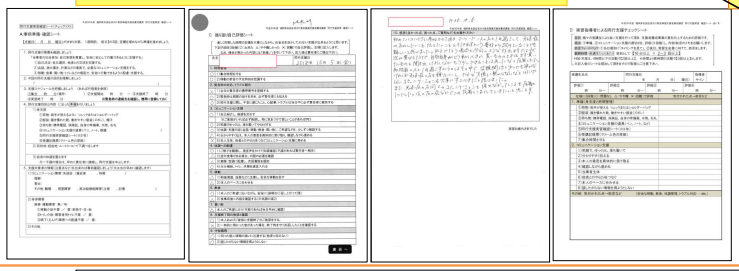
【外出同行支援実習】

- 既存の友の会、サロンの行事で実習（3.5～8時間／回）
- 同行支援実習確認・評価シート を作成

受講生用
- A）事前準備確認シート
  支援決定日・1週間前・3日前に確認記入
- B）当日確認シート
- C）振り返り自己評価シート
  終了後に記入・提出
- D）実習指導者による
  同行支援チェックシート
  フィードバック用

確認内容
目的・意義
スケジュール
身支度
移動　買い物
飲食
トラブル対応
守秘義務ほか

同行支援実習確認・評価シート　A，C表裏（実際例），D



受講生向けニューズレターで全体フィードバック

【まとめ】
1）事業初年度の実習は、既存の友の会・サロン活動に重ねて実施した
2）「実習」は18名全員が既定数を終えた。一部講義の未修者が1名、登録は17名。
3）失語症サポート委員会（6回）や実習前後のミーティングで、スタッフは現状把握と課題対応を行った

【初年度の特徴 ⇒ ●今後の検討課題】　他県・関連分野の情報を収集し、検討・実施へ

1．受講生のうち会話パートナー、STが約半数ずつ
○会話経験・支援技術に補われた面あり
⇒**●一般受講生の増加に伴う講義・実習の工夫が必要**

2．事業スタッフSTも受講（5名）
○支援者の視点からも事業を検討
○対等な立場で　○専門性を生かしたプロボノ活動に

3．協力団体の活動・行事に重ねて実施
○団体のバックアップにより安定した集団活動で実習
○元の流れが優先され、課題場面が想定より少ない
⇒**●事業独自の実習を設定**

4．実習の効果
○個人差はあるが、単独の外出同行支援スキルには未到達
○実習指導側の技量不足やマンパワー不足
⇒**●指導者研修を生かす、県士会STへの協力呼びかけ・配置**

5．支援者としての「達成基準」
○30年度は時間数。　テストや評定による基準は設けず
⇒**●個別派遣想定の達成度レベル設定**
●到達度評価（自己・他者）の方法を検討

6．地域の偏り（受講生・実習場所が２政令市に集中）
⇒**●未連携の友の会やSTの協力を得て、拠点を作りながら県内に拡大する長期プランを検討**